

多比良嘉晃, 1982. 静岡県に産するアリモドキ科の甲虫. 静岡の甲虫 1(2) : 17—26.

Yawata, H., 1944. Description d'une espece nouvelle Appartenant an Genre Anthicus du Japan  
(Col. Anthicidae). Trans. Kansai Ent. Soc. 14(1) : 1—2.

( I · 1992 )

## 尼崎西南部の昆虫(その6)

新 家 勝

### Ⅶ Coleoptera 鞘翅目 (続き)

#### 11. Cerambycidae カミキリムシ科

- (1) *Megopis sinica* White ウスバカミキリ  
1947, 7, 11.  
素盞鳴神社のアキニレにいたもの。
- (2) *Prionus insularis* Motschulsky ノコギリカミキリ  
1950, 6, 26.
- (3) *Spondylis buprestoides* Linne クロカミキリ  
1947, 6, 1.
- (4) *Macroleptura regalis* Bates オオヨツスジハナカミキリ  
1947, 7, 11.
- (5) *Xystrocera globosa* Olivier アオスジカミキリ  
1947, 6, 29.
- (6) *Stenygrinum quadrinotatum* Bates ヨツボシカミキリ  
1944, 6, 29.
- (7) *Leontium viridae* Thomson ミドリカミキリ  
1944, 6, 20, 1946, 5, 21.  
庭のセンダンやオオイボクの花によく飛来した。

- (8) *Palaeocallidium rufipenne* Motschulsky ヒメスギカミキリ  
1944, 4, 15, 1947, 5, 20.
- (9) *Rhaphuma annularis* Fabricius タケトラカミキリ  
1945, 8, 3, 1944, 8, 26.  
物干竿, すだれの骨材など竹製品からよく発生していた.
- (10) *Rhaphuma japonica* Chevrolat エグリトラカミキリ  
1947, 6, 20.
- (11) *Gramographus notabilis* Pascoe キイロトラカミキリ  
1947, 6, 23.
- (12) *Dere thoracica* White ホタルカミキリ  
1944, 5, 5. 2 EA.
- (13) *Purpuricenus temminckii* Guérin-Méneville ベニカミキリ  
1944, 5, 15, 1943, 5, 17, 1947, 5, 11.
- (14) *Anoplophora maraciaca* Thomson ゴマダラカミキリ  
1947, 8, 1.  
サクラ, ヤナギ類, センダン, アラガシ, カキなどでよく見られた.
- (15) *Monochamus alternatus* Hope マダラヒゲナガカミキリ  
1948, 6, 5.  
北隆館 日本昆虫図鑑のカラー図版にマツノトビイロカミキリという名でのっていた垂涎  
的. 松枯れの脇役として, 憎まれ者になることは夢にも考えられなかった.  
1 頭採集したのみ
- (16) *Batocera lineolata* Chevrolat シロスジカミキリ  
1944, 7, 12.  
自宅前のシダレヤナギで1 頭採集したのみ.
- (17) *Apriona japonica* Thomson クワカミキリ  
1947, 6, 2.  
民家に栽植されているイチジクに多かった.
- (18) *Pterolophia rigida* Bates アトモンサビカミキリ  
1949, 9, 20, 1950, 5, 13.
- (19) *Oberea japonica* Thunberg リンゴカミキリ  
1945, 6, 25.

庭のサクラでよく発生していた。

## 12. Chrysomllidae ハムシ科

- (1) *Oreina aurichalcea* Mannerheim ヨモギハムシ

1945, 6, 6.

- (2) *Chrysomela vigintipunctata* Scopoli ヤナギハムシ

1944, 6, 10.

- (3) *Aulacophora nigripennis* Motschulsky クロウリハムシ

1944, 6, 12, 1949, 6, 14.

ウリハムシもナンキン, キュウリ, ヘチマ等に非常に多かった。

- (4) *Cassida piperata* Hope ヒメカメノコハムシ

1950, 5, 7.

これらのほか, サツキに *Chlamisus* 属のハムシが多産した。多分ムシクソハムシであろう。

## 13. Curculionidae ゾウムシ科

- (1) *Macrocorynus variabilis* Roelofs オオクチブトゾウムシ

1944, 6, 10.

- (2) *Lixus acutipennis* Roelofs ハスジカツオゾウムシ R.

1949, 10, 17.

- (3) *Anthonomus bisignifer* Schenkling イチゴハナゾウムシ R.

1947, 6, 20.

- (4) *Hyposipalus gigas* Fabricius オオゾウムシ R.

1946, 6, 26.

## Ⅷ まとめ

もともと、単に虫好きの少年が、目についた昆虫だけを採集していたものであって、専門的な調査をしたのではないから、不十分な浅薄なデータであるうえ、標本の大半を失った後に取り纏めたのであるから、極めて貧弱なものになってしまった。しかし、当時のこの地域で普通に目に付く昆虫たちを大体、知ることができると思う。そして、阪神間近郊の田園地域ならどこでも、この程度の昆虫が普通におり、どことも似たようなものであったと思う。しかし、阪神間ではこの地域はもちろんのこと、もっと広範囲が市街化したので単に昆虫の生活場所が狭められただけでなく、化学洗剤の普及や下水道の完備してない地域での尿尿浄化槽からの放流による水質の変化、薬剤撒布や排気ガスによる大気の成分変化などのため、現在では到底これだけの昆虫は見られない。ただ、1989年は7月と9月

に素盞鳴神社を訪ねたところ、アゲハ・アオスジアゲハが舞い、虫籠にコフキコガネなどを入れた子供たちがシオカラトンボを追いかけていた。やっぱり「宮さん」には虫がいる!!意外に昆虫がいるのを再認識した次第である。適応性や生活力の強い一部の昆虫だけが、僅かに取り残された社寺林や公園、堤防などを中心に、一部は民家の庭先などで力強く生きのびているのが現状だろう。

#### 参考文献

- 北隆館 日本昆虫図鑑
- 北隆館 原色昆虫大図鑑 I, II, III
- 保育社 原色日本昆虫図鑑 下
- 関西トンボ談話会 近畿のトンボ
- 昆虫界 Vol. IX
- 日建測量社 最新尼崎市街地図

## 街に住みついたツマグロヒョウモン

新家 勝

阪神間の背山、つまり六甲山系から長尾山系、さらに能勢にかけての低山地には、クモガタ、ミドリ、メスグロ、ウラギンスジ、オオウラギンスジ、ウラギン、ツマグロの7種のヒョウモンチョウが生息している。昔はオオウラギンもいたそうだが、近年、見られないようである。これらのヒョウモンチョウは、ツマグロを除き、普通は平地に下りてこず、まして平地の市街地に現われることは滅多にない。ツマグロヒョウモンも、主に丘陵地の草原や山上などで見られるが、平地では、秋に南下する個体が河川敷や運動場などを飛んで行くのが時々見られる程度であり、市街地では滅多に見られなかった。ところが、ここ3、4年、平地の市街地やその周辺でよく目につくようになってきた。どうも、近年様子が変わってしまったらしい。

他のヒョウモンチョウと異なり暖地性であるツマグロヒョウモンは、飛び方は暖慢、ことに雌は前翅端が黒色で斜の白色帯があるため、一見カバマダラではないかと思うことがある。また、雌雄の色